

第6回日台合同シンポジウム「持続可能な未来に向けた精密化学：カーボン・ニュートラル、AI（人工知能）、健康管理」 The 6th CST-CSJ Joint Symposium Precision Chemistry for a Sustainable Future: Carbon Neutrality, AI, and Healthcare 2026年3月7日国立中興大學，臺中市，台湾(台湾化学學會 2026化学年會 併設)

台湾化学學會との国際交流

台湾の化学会は、2025年にその呼称をそれまでの中国化学會 (The Chemical Society Located in Taipei; CSLT) から台湾化学學會 (The Chemical Society of Taiwan; CST) に改め^{1,2)}、日本化学会 (The Chemical Society of Japan; CSJ) とは2018年の二学会国際交流覚書を締結して以来、緊密な学術・人的交流を推進してきた。

覚書に記された交流活動の中心は「日台合同シンポジウム」(CSJ-CST / CST-CSJ Joint Symposium) であり、これまでに1~2年ごとに5回成功裏に開催されている。両学会は交互に開催学会となり、時宜を得た主題を国際交流担当が協議して決定し、相手学会の会長あるいは主要役員と両学会から主題に即した第一線の中堅・若手研究者を招待して、合同会議が開催される。今回の第6回を含め、これまでの会議主題を開催経緯とともに下記にまとめた。

- ・第1回 2018年12月8日，中國化學會 (CSLT) 2018 化學年會併設，高雄市，國立中山大學，「環境適合・再生可能エネルギー (Green Energy)」³⁾
- ・第2回 2021年3月21日，日本化学会第101春季年会併設，オンライン開催，「エネルギー変換と貯蔵のための触媒」
- ・第3回 2022年3月12日，中國化學會 (CSLT) 90周年記念年会併設，オンライン開催，「将来に向けた持続可能な化学」⁴⁾

- ・第4回 2024年3月30日，台湾化学學會 (CST) 2024 化學年會併設，新北市，淡江大學，「循環經濟に資する化学」
- ・第5回 2025年3月27日，日本化学会第105春季年会併設，吹田市，関西大学，「革新触媒による持続可能な化学合成」⁵⁾
- ・第6回 2026年3月7日，台湾化学學會 (CST) 2026 化學年會併設，臺中市，國立中興大學，「持続可能な未来に向けた精密化学」

第6回日台合同シンポジウム

第6回合同会議は、台湾化学學會が幹事学会となって、同学会の2026化学年會 (2026 Chemistry National Meeting; 2026年3月6~8日) に併設し、臺中市にある国立中興大學 (National Chung Hsing University; NCHU) で3月7日に開催された (図1)。2026化学年會の主題は「永續×智能×健康」(Innovative Chemistry for Sustainability, Intelligence, and Health) であったが⁶⁾、それに連携させたのか、今回の日台合同会議の主題を「持続可能な未来に向けた精密化学：カーボン・ニュートラル、AI (人工知能)、健康管理」(Precision Chemistry for a Sustainable Future: Carbon Neutrality, AI, and Healthcare) とする提案があり、この主題の下に開催した (図2)。

日本化学会としては、台湾の化学界に知己の多い松田建児教授 (京都大学大学院工学研究科) に開催担当 (guest organiz-

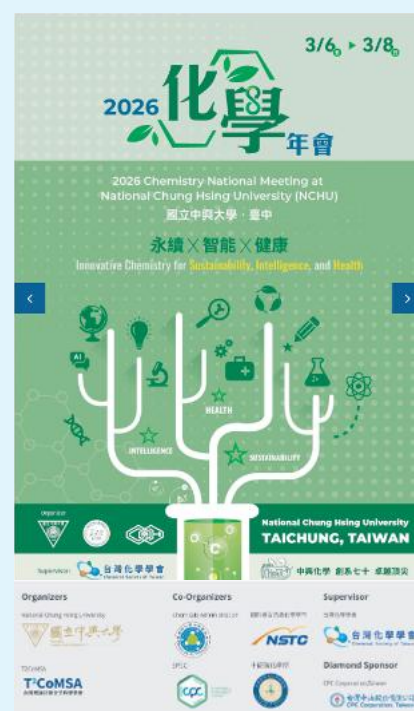


図1 台湾化学學會 2026 化學年會 プログラム 冊子表紙
電子版；主題「永續×智能×健康」と主催・共催 団体と協賛団体のロゴが見える。

er) をお願いし、合同会議主題に沿って下記の方々に講演をお願いした (図3, 敬称略，講演順；主題分野と講演題目)。

- ・丸岡啓二 (京都大学大学院薬学研究所有機触媒化学研究室) [精密化学]
Asymmetric Organocatalysis for Sustainable Chemistry
- ・松田建児 (京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻) [精密化学]
Optically Distinguishable Spin States of a Stable Organic Diradical
- ・長谷川美貴 (青山学院大学理工学部化学・生命科学科) [精密化学]

The 6th CST-CSJ Joint Symposium

Precision Chemistry for a Sustainable Future: Carbon Neutrality, AI, and Healthcare

In conjunction with the 2026 Chemistry National Meeting of the Chemical Society of Taiwan
 Room SC228, Floor 2, Social Science and Management Building, National Chung Hsing University
 Saturday, March 7, 2026

PROGRAM

The 6th CST-CSJ Joint Symposium I	
Precision Chemistry for a Sustainable Future: Carbon Neutrality, AI, and Healthcare	
13:00-14:40 : 2 nd Floor, SC228 Social Science and Management Building (社管大樓), NCHU	
Chair:	Mitsuo Sawamoto / Kyoto University
O6-1	13:00-13:20 Asymmetric Organocatalysis for Sustainable Chemistry Keiji Maruoka / Kyoto University
O6-2	13:20-13:40 Optically Distinguishable Spin States of a Stable Organic Diradical Kenji Matsuda / Kyoto University
O6-3	13:40-14:00 Molecular Design of Diboron Emitters: Structural and Excited-state Control toward Ultralong Emission 吳典霖 Tien-Lin Wu / National Tsing Hua University
O6-4	14:00-14:20 Helical Organic Ligand Engineering for the Enhancement of Luminescence in Rare Earth Complexes Miki Hasegawa / Aoyama Gakuin University
O6-5	14:20-14:40 Coupling Crystallization Dynamics and Interfacial Charge Physics in Mixed Sn-Pb Perovskite Solar Cells 林玠廷 Chieh-Ting Lin / National Chung Hsing University

The 6th CST-CSJ Joint Symposium II	
Precision Chemistry for a Sustainable Future: Carbon Neutrality, AI, and Healthcare	
15:40-17:40 : 2 nd Floor, SC228 Social Science and Management Building (社管大樓), NCHU	
Chair:	蔡易州 Yi-Chou Tsai / National Tsing Hua University
O16-1	15:40-16:00 Innovative Chromophore Platforms for Photon Upconversion and Quantum Technologies Nobuhiro Yanai / University of Tokyo
O16-2	16:00-16:20 Speciation-driven Separation of Critical Materials 黃聖尹 Sheng-Yin Dima Huang / National Cheng Kung University
O16-3	16:20-16:40 Theoretical and Data-driven Approaches to Lanthanide Photofunctional Materials Miho Hatanaka / Keio University
O16-4	16:40-17:00 When It's not Really About Chemical Interactions: On the Gas-separation Mechanism in UTSA-280 邱政超 Cheng-Chau Chiu / National Sun Yat-sen University
O16-5	17:00-17:20 Antibody-like Proteins for D-protein Therapeutics Hiroshi Murakami / Nagoya University
O16-6	17:20-17:40 Chemoenzymatic Manipulation of the Lasso Peptide Microcin J25 朱忠瀚 John Chu / National Taiwan University

圖2 第6回日台合同シンポジウム 科学プログラム



圖3 第6回日台合同シンポジウム出席者(於 中興大學・社管大樓前)

(前列左から) 長谷川美貴, 畑中美穂, 趙奕婷 (CST 事務局長), (後列左から) 村上裕, 澤本光男, 松田建児, 丸岡啓二, 李宗銘, (1人飛んで) 楊井伸浩 (敬称略)。

Helical Organic Ligand Engineering for the Enhancement of Luminescence in Rare Earth Complexes

・楊井伸浩 (東京大学大学院理学系研究科化学専攻) [カーボンニュートラル]
 Innovative Chromophore Platforms for Photon Upconversion and Quantum Technologies

・畑中美穂 (慶應義塾大学理工学部化学科・分子科学研究所) [人工知能 (AI)]
 Theoretical and Data-Driven Approaches to Lanthanide Photofunctional Materials

・村上 裕 (名古屋大学大学院工学研究科生命分子工学専攻) [健康管理]
 Antibody-like Proteins for D-Protein Therapeutics

日台合同会議に先立ち 2026 化学年會の開会式が行われ, 丸岡教授が本会会長として基調講演「Practical Synthesis of Valuable Amino Acids and Peptides for New Drug Discovery」を行った。また, 合同会議の前日 3 月 6 日には歓迎夕食會が開催



図4 CSJ-CST 国際交流協定書 (MOU) 調印式
(於 合同会議 歓迎夕食会)
(左) 李会長と(右) 丸岡会長。

され、丸岡会長と李宗銘 (Tzong-Ming Lee) CST 会長 (臺灣工業技術研究院副院長) により国際交流覚書の更新調印式が行われた (図4)。

日台合同会議は、開会式の午後に、台湾化学学会の一般発表と並行して、中興大学・社管大樓 (Social Science and Management Building) で行われた。台湾の研究者と学生の多数の参加があり、会場はほぼ満席の場合もあって、優れた講演と活発な質疑が進んだ。講演はもとより質疑ももちろん英語で行われ、日台の両学会とも、英語を母国語とする研究者と遜色のない発信力と逞しい国際競争力を身につけた新世代の着実な成長が印象的であり、頼もしくも感じた。

台湾化学学会 2026 化学年會

台湾化学学会の会員数は学生を含めて約 4000 名であるが、2026 化学年會には台湾全土から集まった約 2500 名の登録参加者があり、多数の講演とポスター発表および企業・団体展示が行われた。学会会場は多数の学生の参加もあって、ど

こも活気と熱気にあふれており、特に (一部廊下でも行われた) ポスター発表の会場は文字どおり立錫の余地もないほどの盛況であった。

図1にあるように、この化学年會は、台湾化学学会 (CST) が幹事 (supervisor) となりつつ、国立中興大学 (開催地) と台臺理論計算科学学会の主催 (organizers) とし、さらに日本の自然科学研究機構、学士院・学術会議に対応する国立研究機関の化学部門 (國科學會自然處化學學門⁷⁾、中央研究院化學所⁸⁾ など) の共催 (co-organizers) としており、分野と組織を超えた広い学域・学会・政府機関の共同が進んでいるように思えた。また、Diamond Sponsor 台湾中油全球資訊網 (CPC Corporation, Taiwan)⁹⁾ を中心として、潤沢な支援もあるようであり、円滑で熱意あふれた会議運営も特徴的であった (会場運営には多数の学生が活躍し、休憩時には十分な軽食も提供されて瞬時に底をつく一方、登録料に昼食弁当が含まれ、学生の参加を推奨しているのも日本化学会出席者の話題の1つとなった)。

基調講演と招待講演の2件を快諾いただいた丸岡会長と優れた講演者を選定いただいた松田教授に謝意を表します。また、第6回合同会議の準備と運営には、台湾化学学会の蔡易州 (Yi-Chou Tsai) 教授 [国立台湾大学 (National Taiwan U.)] および趙奕姝 (Ito Chao) 博士 [CST 事務局長; 臺灣中央研究院 (Academia Sinica, Taiwan)] と日本化学会の国際交流担当が共同で当たった。各位の尽力に感謝

申し上げます。

次の第7回日台合同会議は、覚書に従い、本会が開催学会となり2027年3月に行われる第107春季年會に併設して開催される。変革と学際化の著しい化学 (chemical sciences) の潮流を機敏に捉えた会議主題の設定と意義深い合同会議の開催を期待する。

- 1) 台湾化学学会公式ウェブサイト, <https://chemistry.org.tw/> (2026年4月現在).
- 2) https://chemistry.org.tw/news-single.php?mTitle=department&temp_id=845/ (2026年4月現在). 台湾の学会関係者によると、今回の改称にあたり、英語表記を日本化学会の表記 "The Chemical Society of Japan" (CSJ) に倣って、"The Taiwan Chemical Society" ではなく "The Chemical Society of Taiwan" (CST) としたという。なお、台湾では漢字表記に旧字体を多用しており、CST に対し「台湾化学学会」を、また chemical society に対し「化学会」(化学会) ではなく「化学学会」を当てている点も興味深い。
- 3) 徳橋祥平, 中村史夫, 化学と工業 **2019**, 72, 886.
- 4) 澤本光男, 化学と工業 **2022**, 75, 355.
- 5) 澤本光男, 化学と工業 **2025**, 78, 393.
- 6) 2026化学年會公式ウェブサイト, <https://2026cnm.conf.tw/> (2026年4月現在).
- 7) 國科會自然處自然處化學學門: 國家科學及技術委員會 (國科會) 自然科學及永續研究發展處 (自然處) 化學學門 [National Science and Technology Council (NSTC), Department of Natural Sciences and Sustainable Development, Chemistry Division].
- 8) 中研院化學所: 中央研究院化學研究所 (Academia Sinica, Institute of Chemistry).
- 9) 台湾中油全球資訊網: CPC Corporation, Taiwan; 旧称 China Petroleum Corporation. 石油・天然ガス・ガソリンを取り扱う台湾国営企業. <https://www.cpc.com.tw/en/> (2026年4月現在).

[国際交流委員長 澤本光男 (中部大学)]

© 2026 The Chemical Society of Japan